

長期増分費用モデル研究会  
次期LRICモデルに向けた見直し検討について

---

令和元年7月31日

1. モデル検討ワーキンググループの設置(案)
2. 関係事業者ヒアリングの実施(案)
3. 次期LRICモデルに向けた見直し検討の提案募集(案)

## ■ 長期増分費用モデル研究会 モデル検討ワーキンググループ 構成員 (敬称略、五十音順) ※開催要綱(案)は資料1-2参照

### 【長期増分費用モデル研究会構成員】

主査: 相田 仁 (東京大学大学院 工学系研究科 教授)  
主査代理: 佐藤 治正 (甲南大学マネジメント創造学部 教授)  
北口 善明 (東京工業大学 学術国際情報センター 准教授)  
関口 博正 (神奈川大学 経営学部 教授)  
高橋 賢 (横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授)  
森川 博之 (東京大学大学院 工学系研究科 教授)

### 【関係事業者】

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社  
株式会社オプテージ  
KDDI株式会社  
ソフトバンク株式会社  
西日本電信電話株式会社  
東日本電信電話株式会社

### 【オブザーバー】

株式会社三菱総合研究所

### ■ ヒアリング実施時期

- モデル検討WGにて実施(9月目処)。

### ■ ヒアリング対象事業者

- WG構成員の関係事業者

### ■ ヒアリング項目

- ① メタルIP電話のネットワーク設備のうち特にメタル收容装置及び変換装置に関して、設備構成(仕様含む。)及びコスト見直しをお示しいただきたい。もし、現時点で詳細未定である場合は、設備構成及びコスト見直しのそれぞれについて、今後の具体化に向けたスケジュールをお示しいただきたい。(NTT東日本・西日本)
- ② メタルIP電話の終了時期について、また、加入者交換機以外の装置をメタル收容装置として活用する可能性があるのかどうか、その見直しを示しいただきたい。(NTT東日本・西日本)
- ③ 平成29年度接続会計報告書に記載の実際費用※1,960億円が、28年度2,768億円に比べて約30%減となっていることについて、その主な要因を示していただきたい。(NTT東日本・西日本)  
※ 接続会計報告書「第四部 参考情報」の「第一種指定電気通信設備接続会計規則の取扱い等について(要請)(平成29年4月18日 総基料第75号)における『長期増分費用と実際費用との比較・検証を行うための情報について』に基づく措置に係る実際費用。
- ④ PSTNに係る実際費用(PSTNのうち加入者交換機に係る費用)について、IP網への移行過程における(令和6年度までの)見直しを示していただきたい。(NTT東日本・西日本)
- ⑤ 多くのサービス産業では需要が減少した時、サービスを改善して使いやすい環境を作り、需要の増大に努力することが重要であるというのは社会常識と思われる。現在の電話サービスはそのような状況にあるが、貴社では需要の増加を図るためにどのような努力をなさっているのか、また、そのような努力を実行するために何か障害があるのか、お聞きしたい。このような努力は各国でも行われているが、調査をなさった結果があればお聞きしたい。(全事業者)
- ⑥ IP網への移行後における固定電話網の接続料算定に長期増分費用方式を適用とした場合、事業者間の接続料支払に係る影響等、どのようなメリット・デメリットが想定されるか。また、IP網への移行後を見据えた次期LRICモデルを検討するに当たり特に留意すべきことはあるか。(全事業者)
- ⑦ ルータといったIP系の機器類は、物理的減耗よりも、経済的耐用年数が早く来る。そこでIP系機器について、それが物理的に使用可能であっても、新しい代替機器への更新投資をする場合、どのようなルールで決定されるのか、あればお聞きしたい。(全事業者)

- 次期LRICモデルへの見直し検討に当たっては、定量的なプライシングの検証に資するため、第八次モデル(IP-LRICモデル)をベースとしつつ、メタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網をモデル化の対象として、光ファイバや無線などメタル回線以外の方法でもサービス提供可能な設備構成とした場合に見直すべき事項について検討。
- このため、次の項目について関係事業者あて提案募集を実施。

## ■ 提案募集の対象項目

項目	内容
<b>モデル見直しの基本検討</b>	
モデル化の対象とするサービス・機能等	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期LRICモデルにおいて光回線等による設備構成を想定するに当たり、モデル化の対象サービス・機能(固定電話、公衆電話等)、具備すべき機能(緊急通報、局給電等)、モデルにおける非指定設備の取り扱い等について見直すべき事項はあるか。</li> <li>モデルで考慮すべき音声サービス品質は、引き続き0AB～J-IP電話相当とすることが適当か。</li> </ul>
<b>モデル見直しの詳細検討</b>	
加入者回線のモデル化に当たっての考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>光回線等の加入者回線をモデル化するに当たり、ルート設定や設備量算定のためのロジックとして、IP化の範囲(例 どこでIP化するか)、設備選択(例 加入者回線の選択ロジック)、分岐方法(例 局外スプリッタの設置方法)等はどうあるべきか。</li> </ul>
ネットワーク構成についての考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>光回線等を想定した場合のネットワーク構成(例 スコーチド・ノードの仮定)、相互接続(例 相互接続点及び接続方式)、設備構成(例 局設置設備、信号網、緊急通報)等はどうあるべきか。</li> </ul>
設備共用の範囲とトラヒック区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>メタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網をモデル化するに当たり、設備共用の範囲(例 各設備における音声系/データ系のコスト按分方法)や設備量算定のためのトラヒック区分(接続呼、網内呼の区分)等について見直すべき事項はあるか。</li> </ul>
TS/NTSコスト区分の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>メタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網について光回線等による設備構成を想定する場合には、TS/NTSコスト区分等について見直すべき事項はあるか。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他見直すべき事項はあるか。</li> </ul>

## ■ 主な検討事項

### 1. 次期LRICモデルに向けた見直し検討

現行のLRICモデル(令和元年度から令和3年度まで適用)は、加入者交換機や中継交換機等の接続料算定に用いるためのモデルである。IP網への移行後を見据えつつ、令和4年度以降の接続料算定に適用し得る次期LRICモデルとして、どのような見直しが必要か。

(1)モデル見直し検討に当たっての前提条件

(2)モデル見直し検討に当たっての基本的考え方

(3)モデル見直しの詳細検討

(例)

- 加入者回線モジュール; 加入者回線のモデル化に当たっての考え方 等
- ネットワークモジュール、局舎モジュール; ネットワーク構成についての考え方、設備共用の範囲とトラヒック区分 等
- 費用モジュール; TS/NTSコスト区分の考え方 等

### 2. 第八次モデルを用いたユニバーサルサービスコスト算定方法

令和元年度以降の接続料算定方法※を踏まえ、当面のユニバーサルサービスコスト算定をどのようにすべきか。

※情報通信審議会答申「平成31年度以降の接続料算定における長期増分費用方式の適用の在り方について」(平成30年10月)(以下「平成30年情通審答申」という。)

令和元年度から3年間は、IP網を前提とした接続料原価の算定に向けた段階的な移行の時期として対応する。PSTN-LRICモデルを用いて算定した接続料により価格圧搾のおそれが生じる場合は、PSTN-LRICモデルとIP-LRICモデルの組合せへ移行の段階を進める。

### 3. 次期LRICモデルを用いたユニバーサルサービスコスト算定の在り方

ユニバーサルサービス交付金制度の見直しに関する検討内容を踏まえ、今後のユニバーサルサービスコスト算定をどのようにすべきか。

## ■ モデル見直し検討に当たっての前提条件

モデル見直し検討に当たっての前提条件は、平成30年情通審答申を踏まえると、次のとおりとすることが適当ではないか。

### ①モデル化の対象範囲について

- IP網へ移行後の接続料算定に長期増分費用方式を適用とした場合、対象となるサービスや機能の範囲は様々な選択肢が考えられる。接続料算定の効率化等のために適切な範囲を選択するためには、プライシングの観点から定量的な検証を行えることが望ましい。
- そうした定量的なプライシングの検証が可能となるよう、次期LRICモデルへの見直し検討を進めるに当たり、そのモデル化の対象範囲はメタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網を想定。

### ②加入者回線のモデル化について

- 次期LRICモデルへの見直し検討に当たっては、第八次モデル(IP-LRICモデル)をベースとしつつ、モデル化の対象であるメタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網について、光ファイバや無線などメタル回線以外の方法でもサービス提供可能な設備構成とした場合に見直すべき事項について検討。

### ③メタルIP電話の設備構成やコスト見通しについて把握の必要性

- IP網への移行後を見据えつつ、令和4年度以降の接続料算定に用いることを想定して次期LRICモデルの検討を進めるに当たり、実網におけるメタルIP電話の設備構成やコストの見通しを具体的に把握することが望ましい。

次期LRICモデルへの見直し検討に当たっては、定量的なプライシングの検証に資するため、第八次モデル(IP-LRICモデル)をベースとしつつ、メタルIP電話及び光IP電話を一体とした固定電話網をモデル化の対象として、光ファイバや無線などメタル回線以外の方法でもサービス提供可能な設備構成とした場合に見直すべき事項について検討。

